

まずは、自己紹介から・・・

2020.11.30.(経済産業省産構審イノベ小委員会)

イノベーション創出と国プロの在り方について

菊池純一

一般財団法人知的資産活用センター理事長
(青山学院大学名誉教授)

専門分野は、法と経済と技術の接合領域の研究; 知財クリニック論、社会システム構想論、技術追跡評価分析
主な著書・論文に

『先端技術と経済』(岩波書店)『アーリーステージ知財の価値評価と価格設定』(中央経済社)
『知財のビジネス法務リスク』(白桃書房)『場のイノベーション』(中央経済社)などがある。

主な社会活動としては

協創&競争サステナビリティ学会代表理事、研究イノベーション学会副会長(次期会長予定者)、
METI 追跡調査・評価委員会(委員長)、NEDO評価部追跡調査・評価分科会(座長)、
NEDO技術戦略研究センターフェロー、NITE評価・計画諮問委員、
一般財団法人知的財産研究教育財団評議員、
青山学院大学アメリカンフットボール「Lightning」顧問など。

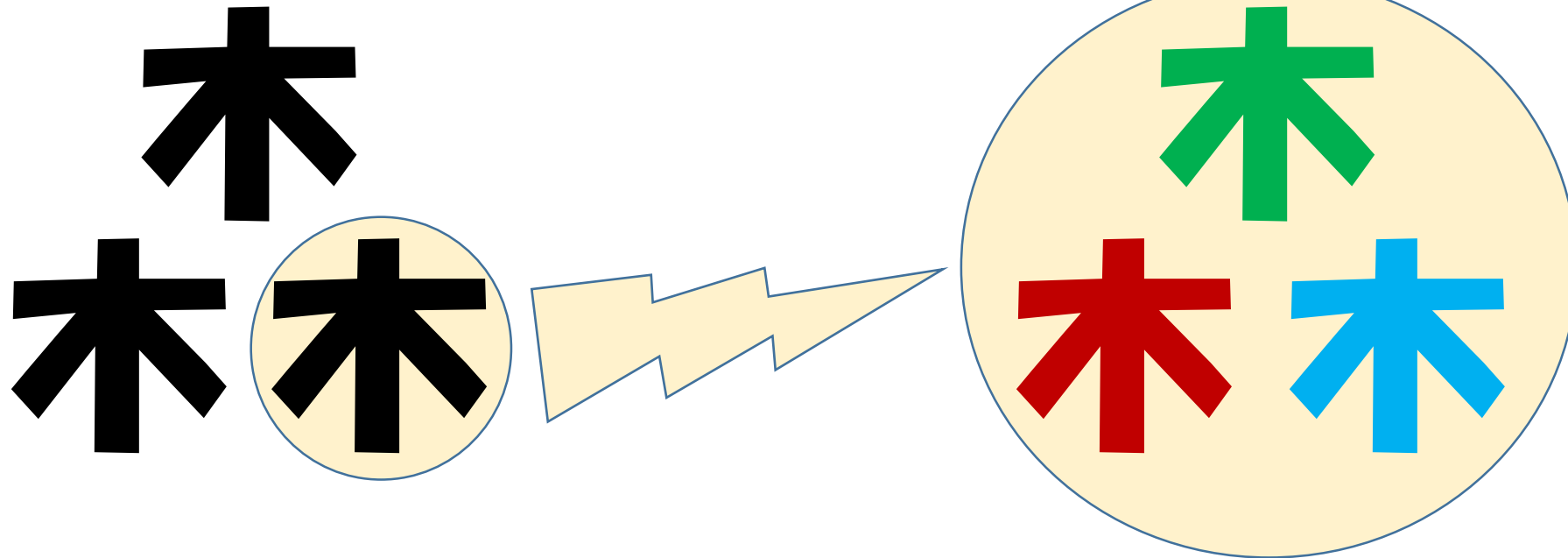
時間が15分に限られているので少し足早に・・・国プロに期待する最大の役割は、システムを創ること

次世代型の社会システムセリングを創り出そう・・・

Create “Social System Selling” for Next Generation Beyond “the Old”

Connecting between Global System and Local System

Translating Social Issue into Technological Targets

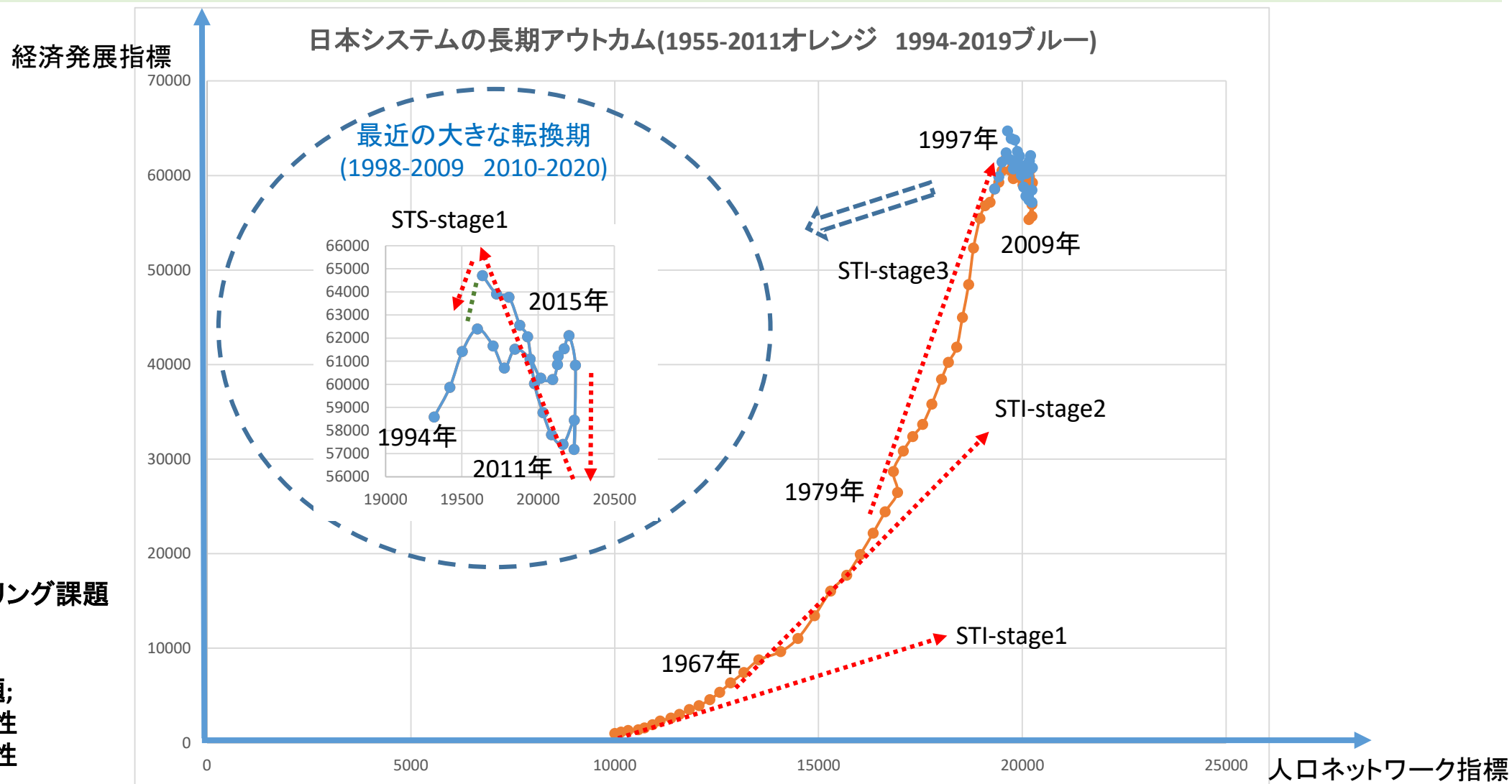


D.Navon(1977) Forest before trees

R.Verganti(2009) Design-Driven Innovation

T.Levitt(1960) Marketing Myopia

R&Dのデカップリング課題へ挑戦すること・・・ Co-innovate Technological Targets Before “Next-SDGs(2030-2045)”



(注1;デカップリング課題
例示)

STIの技術課題;
新規性、進歩性
再現性、競争性

STSの技術課題;
耐久性、多様性
安定性、連鎖性
倫理性

(注2; 社会システムのステージ;
STI: 科学技術イノベーション
STS: 科学技術サステナビリティ

(注3; 経済発展指標は、総務省国民経済計算統計の暦年名目GDPの1955年値をベースにした指標。
人口ネットワーク指標は、総務省総人口統計の暦年総人口数を2乗倍した指標。
2019年は暫定公表値。2020年は推計。(菊池、2020.4)

そして、長年、国プロが抱えてきた”6つの弱点”を克服すること

<6つの弱点> (*)

I 群
第1の弱点
 デザインドリブンの戦略設計に
データ解析が伴っていない

II 群
第2の弱点
 「産・学・官・金」に関わる
場のイノベーションの繋がりが弱い

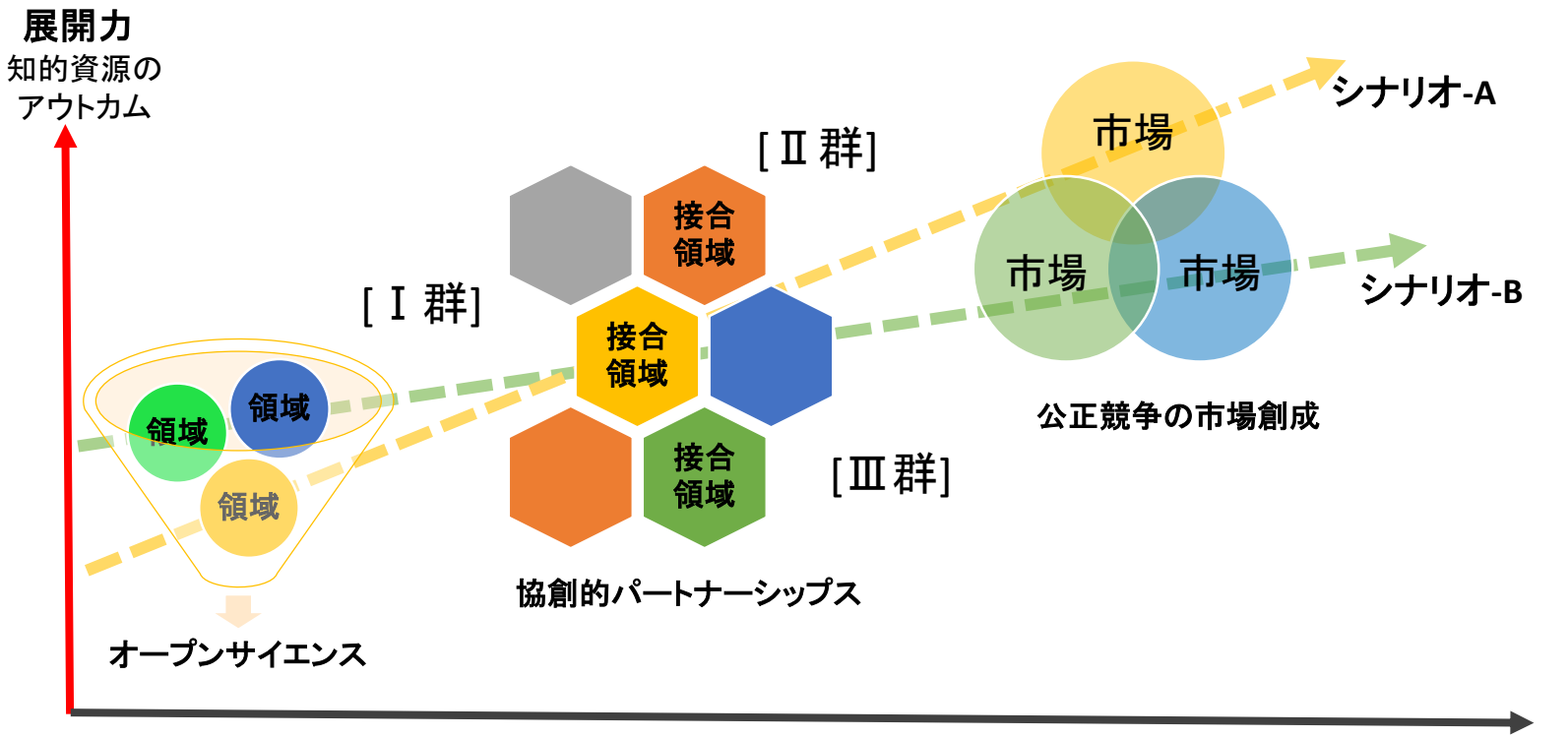
第3の弱点
 「D2D」が描く上位の社会システム
 構想が未完である
 (ビジョンに適合した**アーキテクチャが無い**場合もある)

第4の弱点
 「D2D」の連鎖図式の中で
知的成果が位置づけられていない

III 群
第5の弱点
 目的・標的の調整・手続き等に多くの
 労力。**組織ガバナンスが悪い**

第6の弱点
 国際標準化やカルチャライゼーション
 などを熟知している**専門家が事前の
 設計段階には配置されていない**

連鎖的模式図(D2D; Design—R&D—Diffusion)の目線から俯瞰すると……
 国プロには三種類の改革が必要



(*) 菊池・小林編著『場のイノベーション』(2018)の論点整理に基づいている。
 著者は、菊池純一、西尾好司、安永裕幸、藤田明博、大津留榮佐久、山口泰久、
 島岡未来子、小林直人、竹上嗣郎、今智司、吉田朋央、和泉章、関根久。

戦略的ロードマップ
 ステージ

国プロ改革を実現するためには、少なくとも "4制度" が必要になる

❖ 予算規模30億円超の大型国プロの「追跡評価」事例(36ケース、1997～)、NEDOプロの「追跡評価」事例(2004～、毎年約60ケース)、及び、知財の病院「知財クリニック」の症例(706ケース、2004～)に基づく概括的コメント……

1) エビデンスベースのシステム管理を行うことが要所。

…研究開発成果の統合データベースを構築するための情報資産永久保管制度

I 群:情報資産管理

……………①

2) オープン・イノベーションは魅力的、しかし、場のイノベーションを推進すること。

3) 研究開発を事前設計から社会実装までの一気通貫システムに組み込むこと。

4) 知的成果の多様な繋がりにインセンティブを与えること。

…社会システムセリングのパートナーシップ(協調、協力、協賛)加速推進制度

II 群:加速推進枠組み

……………②

5) 第三者目線のゲート管理が重要、CxOの位置づけを明確にすること。

…CxO(CEO、CCO、CFO、CTOなど)のガバナンス要員配置支援制度

III 群:専門人材育成

……………③

6) 社会課題及び夢のコンセプトを技術課題に翻訳することが重要。

…社会課題を技術課題に翻訳し戦略設計を行う専門職人材育成・資格制度

……………④